

令和元年度(2019年度)第1回経営戦略会議の概要

議 題	経営戦略方針について
日 時	令和元年(2019年)6月14日(金)10:00~11:00
場 所	豊中市役所 第一庁舎3階 第二応接室
出席者	市長、副市長、都市経営部長、総務部長、財務部長 経営改革専門委員(生駒委員、小谷委員、高橋委員、野田委員)
概要	経営戦略方針(2019~2022)についての意見・提案

<主な意見>

『戦略1:生産性・成果向上戦略』について

- 職員がどこからでもアクセスできる IT インフラの一元化が必要。仕事の進捗状況や成果を把握できる上、ビッグデータとしても活用できることから、人材育成や内部改革にも繋がる。
- 投資について、明確な優先順位をつけ、教育をはじめとする戦略的な政策に集中的に投下することが必要。
- 成果を評価する際、失敗を分析し、そこから軌道修正をすることが大事。
- 最初から整ったものを示すのではなく、「トライ＆ゴー」を繰り返しながら開発する等、スピード感ある経営が必要な時代になってきている。

『戦略2:人・組織づくり戦略』について

- 人口減少の中、女性ほか多様な人たちの活躍を促す仕組みが必要。
- 男性の育休取得を当たり前にしていくことが必要。働き方改革にも繋がる。
- 市役所内部の改革だけでなく、市民に対して、ロールモデルとなる女性を市長が表彰する仕掛けも有意義ではないか。
- 今後、外国人人口が増えてくる中、外国人と協働して住みやすいまちづくりを進めることが重要。多言語案内はもちろん、キャッシュレスや MaaS(マース)なども必要。最初は南部などの小さいエリアで実験的に行ってみてはどうか。
- 外部視点を取り入れるために、社会人インターンシップで市内企業に職員を派遣してはどうか。双方向のやり取りで、繋がりや理解も深まる。
- 職員が豊中市で働くことに誇りを持てれば、市民や市外の方にも伝わる。

『戦略4:共感・共創戦略』について

- ✿ 市民の共感を得るための効果的な情報提供方法を、行政内部で議論することが必要。
- ✿ 事業等をスクラップする際は、市民と対話しながら進めることがポイント。市民に具体的なビジョンやエピソードデータ等を示す中で、理解や共感を得ながら市民にも選択してもらうことが重要。
- ✿ ホームページの広報だけでは政策が見えにくいので、プッシュ型やイベントなども活用して積極的に情報を開示してほしい。
- ✿ 起業家や市民のクラウドファンディングに、市も積極的に関与してはどうか。また、行政サービスでもクラウドファンディングを募ることで、参画意識が高まる。
- ✿ 行政だけではなく、市民や NPO 等の多様な主体と共に動くことが必要。

『戦略5:未来への投資戦略』について

- ✿ 南部地域でベンチャー企業の誘致、支援の体制を整えてほしい。

『経営戦略方針の全体』について

- ✿ これまでの方針と何が違うのか、経営的視点の考え方をわかりやすく伝える工夫が必要。
- ✿ この方針で、誰に対してマネジメントしていくのかを明確に伝えることが大切。
 - ①市民(満足度の向上)
 - ②市外の方(豊中に対する期待感の醸成)
 - ③組織(職員のモチベーションアップと組織文化の見直し)